

平成28年度

資料2

第4回長野市総合教育会議

平成28年度

全国学力・学習状況調査について



平成29年2月1日

平成28年度 全国学力・学習状況調査 長野市の結果

3 教科に関する調査の結果概要 (A・B学力)

	小学生				中学生			
	長野市	長野県	全国	全国との差	長野市	長野県	全国	全国との差
国語A	75	74	73	+2	75	76	76	-1
国語B	58	59	58	+1	64	66	67	-3
算数A	79	77	78	+1	60	61	62	-2
算数B	48	47	47	+1	42	44	44	-2

■ 赤字 全国と等し、または上回った数値

■ 青字 全国を下回った数値

全国の正答率を100とした場合の、本市の結果の推移 (国語・算数・数学)

小学生



全調査で全国平均を上回り、良好な結果となりました。国語A・B、算数Aは、昨年度を上回りました。

中学生

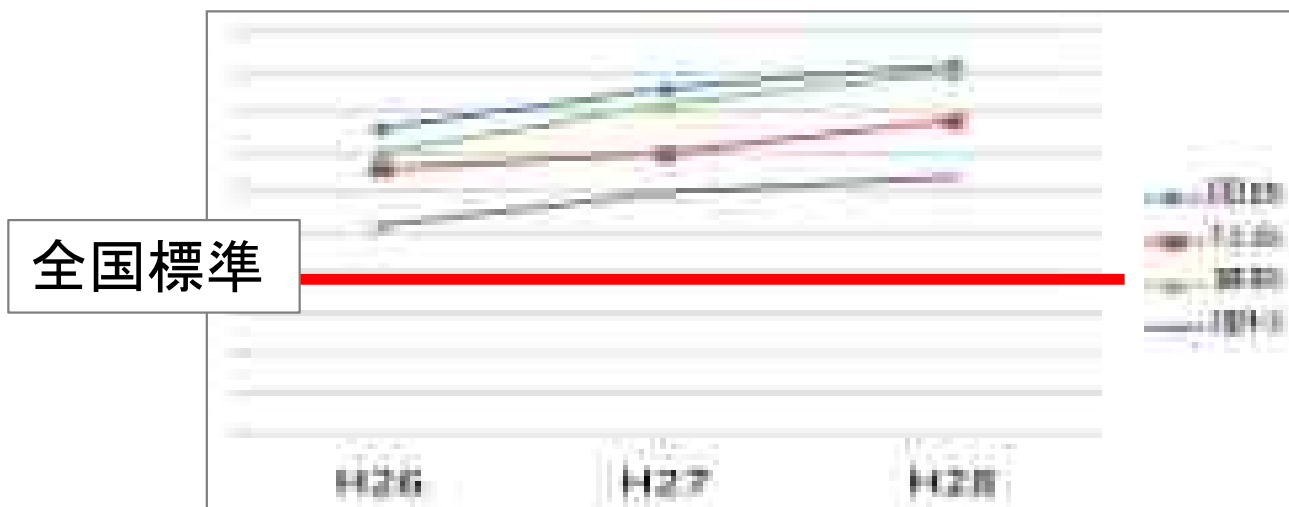


全調査で全国平均を下回りました。国語Aはほぼ全国並みですが、国語Bと数学では課題が残る結果となりました。

小学校の結果から

- 標準学力検査(NRT)の結果を活かした
指導改善サイクルづくりが効果を上げている
- 検査結果から →定着していない力を確実に補完
→自分の授業を見返し、改善

最近3年間の標準学力検査(NRT)結果 (小学校6年生実施:小5の学習内容)



- 中学校では、小学校のような指導改善サイクルが
十分機能していないことが課題

正答率が高い長野市の中学生は

(28年度の教科調査結果と質問紙調査のクロス集計より)

生活習慣

- ・ 普段、ゲームやインターネットを1時間以内、またはしない
- ・ 土日の学習時間が3時間以上(塾等も含む)
- ・ 読書を1日あたり30分～1時間
- ・ 図書館に週4回以上行く
- ・ 計画を立てて勉強する、復習をする
- ・ 社会の出来事に関心がある
- ・ 新聞を週3回以上読む

授業の臨み方

- ・ 課題に対して自ら考え、自分から取り組む
- ・ 自分の考えを発表する機会が与えられていた
- ・ 話し合いで相手の考えを聞き、自分の考えを伝えた
- ・ 考えが伝わるよう、資料や文章、話の組立を工夫した
- ・ 勉強が好き

→ 11月より、中学校の校長や教頭と懇談を実施

→ 12月より、中学校への学校訪問と授業参観、学力向上に向けた協議

学力向上に向けた市教委の取組

①各校の「指導改善サイクル」構築に向けて

各校のニーズに合わせた支援の充実

- ・日課の工夫、部活動、家庭学習等の指導改善についての助言
- ・授業支援に加えて、指導主事の指導改善サイクルづくりのための訪問支援
(学力調査の結果分析支援、児童生徒理解支援、小中連携支援、学校づくり支援 教科会支援 研究主任への助言・支援 等)

②市教育センター研修の充実

- ・新学習指導要領に向けて、最新事情を学ぶ研修
- ・教科の指導力を高める研修
- ・学力向上、学校づくり、小中連携について各校の情報交換
- ・児童生徒を理解するための研修 等

中学校の具体的な取組と課題

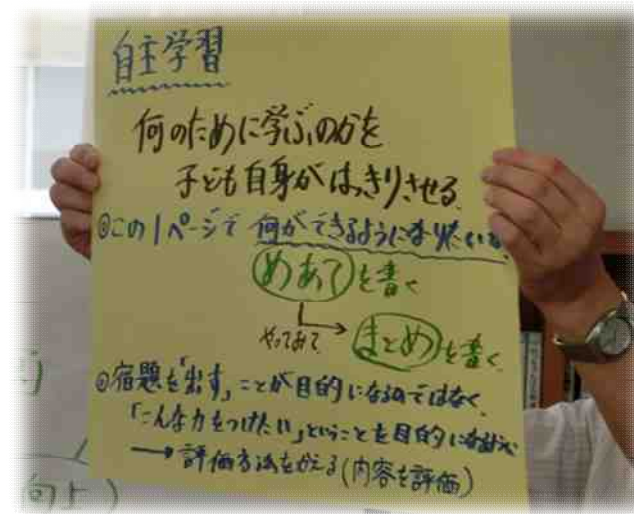
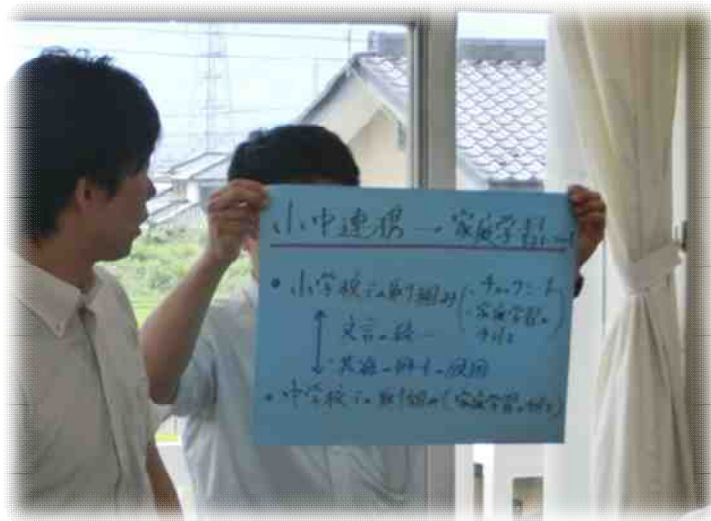
○ 日課の工夫・日常の取組

- ・下校、部活動前の25分間、週2回は学力向上の時間に補充プリントを計画的に実施(三陽中)
- ・水曜日の午後の清掃をカットし、補充的な学習を実施
(篠ノ井西中)
- ・毎日下校前に15分「自学」を実施。多目的室で全校が学習
(七二会中)
- ・週一回の清掃を、相談等の時間として確保 (川中島中)
- ・昼休みを1時間取り、教員に質問する時間を確保(中条中)
- ・テスト前に放課後学習相談会の実施(櫻ヶ岡中)
- ・10月、11月を「学力向上月間」を設定し、実践(篠ノ井東中)

中学校の具体的な取組と課題

○ 部活動・家庭学習の指導改善

- ・県の指針どおりに部活動を実施（朝部活なし、休養日を設定）
- ・曜日を決めて「ノー部活デー」を設定（更北中、豊野中 他）
- ・毎日の提出ノートの内容が作業的にならないように工夫し、日々の授業内容と重なるように工夫（櫻ヶ岡中、戸隠中 他）
- ・小中共通の「家庭の手引き」の作成と指導（鬼無里中 他）
- ・支会単位で、自主学習、小中連携の研究（南部支会 他）



【写真】

篠ノ井西中で行われた家庭学習の研修会で、児童生徒が自主的に取組むための支援を検討している様子

中学校の具体的な取組と課題

○ 日々の指導改善・授業の充実のための

指導改善サイクルの構築

- ・しなのきプラン29にある、正答率40%以下の生徒の割合が全国を下回る等、学校としての数値目標を具体的に設定する
(篠ノ井西中 他)
 - ・基礎的な力を問うA問題の結果を全国と同様に(豊野中 他)
 - ・教科ごとに指導内容を検討できる時間の確保(裾花中)
 - ・目標を示す、まとめをするなど、全教科で意識して取組むことを設定する(犀陵中 他)
- ▲ 検査結果(客観的な数値データ)を基に生徒の実態を把握し、指導改善サイクルの計画を見直し、着実に実践し、検証していくこと